

集団予防接種等によるB型肝炎感染拡大の検証
及び再発防止に関する検討会

座長

様

平成24年9月13日

日本肝臓病患者団体協議会

検討会委員 山本宗男

検証項目ごとの調査手法及び内容についての意見

下記の通り、検証項目の調査方法及び内容について意見を表明します。よろしくお取りはからいください。

検証は昭和23年から昭和63年の40年間で、昭和48年にB型肝炎ウイルスが発見されるまでは血清肝炎の時代です。第一回・第二回検討会で全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団の委員、日本肝臓病患者団体協議会の委員から提言、また永井座長の発言にもありますように、「血清肝炎、ノンA、ノンBの考察が必要」です。その時代背景を基本として調査が行われます様、重ねて提言を行います。

第1 事務局資料2項

日本におけるB型肝炎ウイルスの感染及び感染拡大の実態（時間軸での変遷）

(2) B型肝炎ウイルスの感染実態（文献調査）

「B型肝炎ウイルスに関する疫学的研究論文などを収集分析する」となっていますが、「血清肝炎、ノンA、ノンBの考察が必要」で、これらを併せて疫学的研究論文などを収集分析するようお願いします。

理由：検討会の目的が、集団予防接種等によるB型肝炎ウイルスの感染について、遅くとも日本で昭和26年ころ注射針・筒を連続使用した場合、血清肝炎が生じる危険性があるとの医学的知見が確立し、昭和63年に厚生労働省が予防注射等で注射針・筒を被接種者ごとに取り替えるよう指導した。この間を多方面から検証をして、今後このようなことの起らない対策を提言することですから、B型肝炎ウイルスが発見される昭和48年までは肝炎ウイルスの感染による血清肝炎を、B型肝炎ウイルスが発見されてからは、B型肝炎ウイルスと非A非B肝炎ウイルスの感染を検証することが必要です。

第2 事務局資料3項

B型肝炎に関する医学的知見およびそれに対する関係機関等の認識について（時間軸での変遷）

(1) B型肝炎の病態等に関する医学的知見及びそれに対する関係機関等の認識

「B型肝炎ウイルスが発見された昭和48年以降のB型肝炎の病態、感染経路、感染

リスク等に関する研究論文、ガイドライン、医学教科書などを収集し」となっていますが、検証は昭和23年から昭和63年の感染（40年間）であって、昭和48年から昭和63年の感染（15年間）ではありません。昭和23年以降の「血清肝炎、ノンA. ノンBの考察が必要」です。それぞれの時代の「病態、感染経路、感染リスク等に関する研究論文、ガイドライン、医学教科書などを収集し」をお願いします。

理由：第一と同様

- (2) B型肝炎の感染経路に対する医学的知見及びそれに関する関係機関等の認識
 - (1)と同じ
- (3) 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルス感染リスクに対する関係機関等の認識
 - (1)と同じ

第3 事務局資料4項

集団予防接種等によるB型肝炎感染被害発生の把握及び対応（時間軸での変遷）

- (1) 関係学会、医療関係者による把握及び対応
 - 「集団予防接種等によるB型肝炎感染被害が疑われる事例の把握及び対応の状況を、」
「昭和23年～昭和63年の文献を対象」となっています。昭和23年～昭和63年の期間はB型肝炎ウイルスが発見されない期間を含み、「血清肝炎、ノンA. ノンBの考察が必要」で、これらを含む事例の把握及び対応の状況をされますようお願いします。。
- 理由：第一と同様
- (2) 自治体及び予防接種従事者による把握及び対応
 - (1)と同じ
- (3) 国（国立感染症研究所を含む）による把握及び対応
 - (1)と同じ
- (4) 関係機関間の情報共有等の連携の実態
 - (1)と同じ

以上